

KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

巻頭のことば

メタデータ	言語: jpn 出版者: 関西外国語大学 公開日: 2016-09-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 加藤, 昌彦 メールアドレス: 所属: 関西外国語大学人権教育思想研究所
URL	https://kansaignai.repo.nii.ac.jp/records/5744

巻頭のことば

人権教育思想研究所所長 加藤 昌彦

ある学生カップルが就職のためにある企業セミナーに出席しようとした。男性には「空席があります」との返信。それより前に申し込んだ女性には、「満席となりました」との返事が来たという。またある公的組織では、何回か就職試験を受験できるが、男女によって受験可能回数が異なり、採用枠人数も異なるという。さらに女子学生には総合職でなく一般職への誘導が行われている。これらは1972年に男女雇用機会均等法が制定され、1997年には罰則規定も強化されている日本の、昨今の就活状況である。

一方、世界では女性の地位には静かで急激な地殻変動が起きている。北欧では国会議員の女性割当は約40年前から始まっている。スウェーデンの女性国会議員は46%である。ヨーロッパ各国では女性議員が急増している。アフリカのルワンダでは女性の国会議員は56%を占めている。インドでは2010年3月、下院と州議会の議席の3分の1を女性に割り当てた。ネパールでも国会議員の3分の1は女性に割り当てられている。

大学のなかでも女性が次第に位置を占めつつある。2003年にはアメリカのハーバード大学の学長に女性が就任した。女性の地位が低い中東のイランでも、大学生の3分の2は女性で、教育者の半数以上は女性である。またサウジアラビアの大学卒の58%は女性である。日本でも2002年度採用の大卒の大阪府行政職では女性が男性を超えた。2007年の丸の内の企業は、新採社員で女性が半数を超えた。

世界史的に見れば、短期間で大きな変動が起きているが、日本は遅々として進んでいないかに見える。女性のパワーが余りにも低く見られている。女性に対する固定観念を早急に改めなければならない。大きな変化をもたらすよう、社会をあげて努力し続けねばならない。